

東京2020大会等を通じた 被災地復興支援事業について

東 京 都

東京都における復興支援の取組

■ 人的支援

これまでに延べ3万名を超える都職員を被災地に派遣し、被災地の復興事業を支援。今年度も、豊富な行政経験や専門技術を有する職員を派遣。



石巻市 新門脇地区
下水道雨水災害復旧事業

■ 都内避難者支援

約5千名の都内避難者に対し、応急仮設住宅への受入や相談拠点の運営、地域で行う交流会の支援、上下水道料金の減免などの取組を実施。



交流会の様子

■ 復興に向けた多様な支援

- 「ふくしま⇔東京キャンペーン」の展開
 - ・ 民間団体等と連携して、都内各地で県産品販売と観光PRを実施
- 被災地応援ツアーの実施
 - ・ 福島県への旅行を対象に、1泊3,000円、日帰り1,500円等の助成を実施
- CO2フリー水素の活用等に向けた連携
 - ・ 都、福島県、都環境公社、国の産業技術総合研究所の4者が連携し、共同研究、情報発信等を実施
- RWC2019日本大会を契機とした観光振興事業
 - ・ 国内開催都市と連携して、被災地を含む日本各地と東京との周遊を促すプロモーションを実施
- 災害廃棄物（がれき）を都内処理施設で受入
 - ・ 岩手県、宮城県との協定に基づき、平成25年度までに約16万8千トンを受入処理

スポーツの力で被災地を元気に

■スポーツ招待交流事業

被災地の少年少女スポーツ団体・チーム等を東京に招待し、合同練習、交流試合などスポーツを通じて東京の少年少女と交流。



東大和市と宮城県の交流

■アスリート派遣事業

被災地にアスリートを派遣し、スポーツ教室等の開催を通じて、小中高校生がトップアスリートから指導を受け、身体を動かす機会を提供。



いわて大運動会 in岩泉
(講師：柳本昌一さん)

■未来（あした）への道1000km縦断リレー

青森から東京までつなぐリレーを通じて、復興へ向けた取組や被災地の現状などを発信。

東日本大震災の記憶の風化を防ぎ、全国から集まる参加者と被災地の方々の絆を深めている。



ふれあいランニング
(青森市)

■風化防止イベント

都民に対して、東日本大震災の風化防止及び支援の継続を呼びかけるイベントを開催。

イベントでは、県産品・郷土料理の販売のほか、東京2020大会を通じた復興支援に関するブースも設置。



東京2020大会を通じた復興の後押し

■ オリンピック・パラリンピック フラッグツアー

全国巡回開始に先駆けて、大会組織委員会と共催で、東北三県及び熊本県でフラッグツアーを実施。被災地に元気をお届けした。



フラッグ歓迎イベント
(福島県)

巡回県	歓迎イベント日程	巡回期間
福島県	H28.11.2	H28.11.2～12.25
宮城県	H29.2.9	H29.2.9～3.18
岩手県	H29.2.17	H29.2.20～4.16
熊本県	H29.4.26	H29.4.27～7.7

■ 被災地でのライブサイト

リオ2016大会、平昌2018冬季大会に合わせ、大会組織委員会と共催し、被災地でライブサイトを実施。競技生中継のほか、各地域の団体によるステージイベントも行った。



平昌2018冬季大会時の
ライブサイト (宮城県)

■ 被災地復興支援映像

平成28年に東北三県、平成30年に熊本県の復興支援映像を制作。リオ2016大会や平昌2018冬季大会ジャパンハウス、ライブサイト等で上映するとともに、都立学校オリンピック・パラリンピック教育でも活用。



東京2020大会に向けたこれからの主な取組

■ 全世界に向けた被災地復興発信事業

- 今年9月、大会組織委員会が実施するメディア向け事前説明会にあわせて、海外メディアを対象とした被災地への取材ツアーを実施予定。
- 現地でしか伝わらない被災地の現状や復興状況を全世界に向けて発信していく。



復興まちづくりが進む
宮城県・女川駅前

■ 被災地の子供達に対する取組

- 中高生による大会でのボランティア活動体験や、子供達への観戦機会の提供といった事業について、今後検討を行っていく。

